

おわりに

副校長 八木田 修

本校は、平成 28・29 年度豊島区教育委員会研究推進校として、研究主題を「健やかな心と体をもつ児童の育成」と設定し、今年度から副主題を―「認め合い・教え合い・励まし合い」3つの合いを大切にする体育科指導の工夫―として体育科の研究に取り組んできました。

研究授業や日々の体育の授業を通して、児童の心の成長、体力の向上を意識し、「認め合い・教え合い・励まし合い」の3つの合いに焦点を当てて研究を進めています。研究を通して児童が仲間と豊かにかかわり、運動する楽しさや喜びを実感している

姿が多く見られるようになったことは大きな成果です。

研究主題に迫る手立てを考え、研究を重ねてきましたが、教え合いの方法、運動量の確保、振り返りの方法などについては、更に研究を深め、来年度に向けてより充実した体育科の学習を構築できるように努めてまいります。

最後になりましたが、本研究にご指導賜りました講師の先生方、ご協力いただきました皆様、豊島区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。今後ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

ご指導ご協力いただいた皆様

東京学芸大学 特命教授	古家 眞 先生
杉並区立桃井第三小学校 校長	末永 弘 先生
板橋区立緑小学校 主任教諭	北川 修司 先生
ボンフィンフットボールパーク南長崎 フットボールダイレクター	川村 元雄 氏
FC東京キャラバン隊コーチの皆様	

研究に携わった教職員

◎：研究推進委員長 ○：研究推進委員

校 長	西 村 浩	副 校 長	八木田 修
1 年	○寺 岡 祥 子	吉 川 和 男	才 原 知 子
2 年	山 本 英 征	○萩 原 優 子	
3 年	牧 野 裕 子	高 橋 恒 介	○荒 川 正 宇
4 年	○高 井 智 史	島 田 美 裕	
5 年	野 村 尚 子	宇 田 和 也	
6 年	○彌 永 英 俊	○遠 藤 健太郎	
竹の子学級	竹 内 加 奈	山 内 礼 恵	○木 村 喜 好 鹿 討 秀 美
算数少人数	横 田 孝 夫	日本語指導	影 山 真 紀
音 楽	◎平 松 彩	図 画 工 作	天 野 みなみ 福 崎 亜 矢
栄 養 士	石 橋 真友美	養 護	滝 川 歩
事 務	石 野 千恵子	くわのみ教室(巡回指導員)	藤 原 恵 子 西 川 樹 里
特別支援教室専門員	石 原 美 江	特別支援学級指導員	石 田 知 子
教育支援員	鈴 木 渉 夫	野 田 友 香	

【平成28年度に研究に携わった教職員】

〈副校長〉野澤 一代 〈2年〉増村 亜矢子 〈竹の子学級〉新井 陽子 薊 裕也
〈主任養護教諭〉清水 美弥 〈くわのみ教室〉白井 ひとみ

平成28・29年度 豊島区教育委員会研究推進校

平成28・29・30年度 東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校



健やかな心と体をもつ児童の育成

―「認め合い・教え合い・励まし合い」3つの合いを大切にする体育科指導の工夫―



あいさつ

豊島区教育委員会教育長 三田 一則

平成28・29年度豊島区教育委員会研究推進校及び平成28・29・30年度東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校として、体育科指導の工夫に焦点化した朋有小学校の研究発表に、深く敬意を表します。

本校は、これまでWHOの推奨するインターナショナルセーフスクール(ISS)の認証校として、学校におけるけがのデータ分析等科学的な手法によって、保護者・地域と共に安全・安心な学校づくりに取り組んでまいりました。安全教育、児童の危険回避能力の育成等、本校が「健やかな心と体をもつ児童の育成」を研究主題に設定して研究に取り組むことになったのは、児童の体力・運動能力調査の結果分析から課題を見出したからであります。

次期学習指導要領小学校体育科では、「主体的・対話的で

深い学び」が求められており、運動や健康についての課題の解決に向けて、ISSの取り組み過程で学んできた学習スキルを生かし、児童が他者との対話を通して、自己の思考を広げ、深めていく対話的な学びを実現することが重要であります。本校では、「認め合い・教え合い・励まし合い」の3つの合いを適切に設定することについて実践を積み重ねてきました。

認め合い、教え合い、励まし合いながら、みんなで運動を楽しむ機会を増やし、児童が自らの体力向上と健康について深く考え、どんな実践力や技能を身に付けることができたかという今日的課題に応えるものです。

これまで、本研究の推進にご尽力をいただきました西村浩校長先生をはじめ、教職員の皆様、御指導いただきました講師の諸先生方に厚く御礼申し上げ、挨拶といたします。

はじめに

校 長 西村 浩

本校はISS認証校として、児童自らが危険を予測し、回避する能力の育成に力を入れています。

平成28・29年度は豊島区教育委員会研究推進校として、「健やかな心と体をもつ児童の育成」を研究主題に、「認め合い・教え合い・励まし合い」3つの合いを大切にする体育科指導の工夫に取り組んできました。児童が仲間と豊かにかかわり、進んで運動の楽しさや喜びを実感できるように、教員一人一人が日々の授

業に真剣に向き合い、研究授業や実技研修などを通して体育科の指導力を高めてきました。本研究が教育ビジョン2015「健康でたくましく生きる子ども」の実現に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた教育施策として体力向上・健康づくりに繋がるよう、今後も研究を深めてまいります。

ご指導いただきました講師の先生方には心より感謝申し上げます。



平成29年10月24日(火)
豊島区立 朋有小学校

朋有小学校

「児童の健やかな心と体を育むプログラム」

① 10の取組の基本的な考え方

本校は、平成28・29年度 豊島区教育委員会研究推進校、平成28・29・30年度 東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校として、健やかな心と体をもつ児童の育成の実現に向け、「児童の健やかな心と体を育むプログラム」を作成した。

以下10の取組は、本校の「体育・健康」に関する具体的な取組を示したもので、豊かな人間性、体力向上につながる。10の取組の2・3・4・5・6・8は、校内研究に深くかかわるものである。

- 取組1

「体育・健康プラン」の推進

ねらい 体育・健康プラン」を学校経営方針に位置付け、学校教育活動全体を通して体育・健康に関する取組を推進する。
- 取組2

体力テストの実施・結果・分析

ねらい 児童の実態を把握し、その結果を分析し基礎資料として体育科授業に活用する。
- 取組3

「認め合い・教え合い・励まし合い」3つの合いを大切にする体育科授業の工夫

ねらい 仲間と豊かなかかわりを通して運動の楽しさ、心地よさを実感し、自らの心と体の変化に気付く授業を実践する。
- 取組4

FC東京キャラバン隊と創る授業

ねらい 児童のやる気、考えを引き出し、体の動きを高める指導を工夫する。
- 取組5

教員の指導力向上

ねらい 児童の発達段階に応じた適切な指導の在り方、指導方法や実技指導の研修を行い、教員の指導力向上を図る。
- 取組6

心と体のアンケートの実施・結果・分析（運動習慣・生活習慣の改善）

ねらい 家庭・地域・関係諸機関と連携し、運動習慣・生活習慣の改善を図る。（学期1回アンケートを実施）
- 取組7

体力向上のための1校1取組運動

ねらい 計画的に体育朝会で長なわ、短なわを使った運動を行う。
- 取組8

休み時間を活用した朋有エンジョイタイム（業間運動遊び）の推進

ねらい 時間、施設を生かして運動遊びの機会を確保し、体力向上を図る。
- 取組9

体育的行事等における運動意欲の向上

ねらい 体育的行事への参加やオリンピックとの交流を通して、運動意欲を高める。※運動会、オリンピック・パラリンピック教育推進
- 取組10

体育科授業のけが件数の分析と具体的な対策と取組

ねらい 体育授業のけがの未然防止に努め、具体的な対策を考え授業改善を図る。※セーフスクールの取組（安全チェックカードの作成・工夫・改善）

② 10の取組実施計画

児童の健やかな心と体を育む取組は、短期的に成果が表れるものではなく、中・長期的な視野に立って取組の推進を図らなければならない。3年後の2020年オリンピックイヤーに目標が達成できるよう、この計画に沿って年度ごとに、継続的にその成果を把握し、取組の改善を図る。

取組	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
取組1 「体育・健康プラン」の推進	プラン作成・評価・改善	取組の検証 （豊島区教育委員会研究推進校発表 東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校中間発表）	I S S 取組の審査・東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校発表		
取組2 体力テストの実施・結果・分析	5・6月実施 7・8月分析				
取組3 「認め合い・教え合い・励まし合い」3つの合いを大切にする体育科授業の工夫	仲間とかかわり、心と体の変化に気付く授業				
取組4 FC東京キャラバン隊と創る授業	児童のやる気を引き出す実践授業				
取組5 教員の指導力向上	実技研修を中心とした校内研修の充実				
取組6 心と体のアンケートの実施・結果・分析（運動習慣・生活習慣の改善）	家庭・地域・関係機関との連携、取組推進				
取組7 体力向上のための1校1取組運動	計画的な体育朝会の実施				
取組8 休み時間を活用した朋有エンジョイタイムの推進	時間、施設を生かした外遊びの推進				
取組9 体育的行事等における運動意欲の向上	オリパラ教育、アクティブライフ研究実践等				
取組10 体育科授業のけが件数の分析と具体的な対策と取組	安全チェックカード作成・工夫・改善				

1 研究主題設定の理由

平成27年度に実施した東京都の生活・運動習慣等調査では、東京都と比べると、1年生から3年生までの児童は、毎日運動している割合が高いが、4年生以上になると低くなっていることが分かった。また、児童の体力や運動能力を見ると、ほとんどの種目で東京都の結果を下回っており、総合的に体力が低いことも分かった。児童の運動への関心や意欲を高め、運動の楽しさと喜びを実感させながら、意図的計画的に体力向上を図る必要があると考えた。

そこで、児童の心身ともに健全な発達を促し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、明るく楽しい生活を営む態度を育てていくことが重要と考え、平成28・29年度豊島区教育委員会研究推進校を受け、豊島区教育ビジョン2015に基づく「健やかな心と体」の育成について、体育科を中心に研究を進めることとした。

研究を進めるに当たり、「仲間と豊かなかかわりをもって運動の特性や魅力に応じて学習すれば、自分の健康に関心を持ち、体力向上を図ることができるのではないか」と仮説を立て、具体的な研究活動を考えた。体育科では、心と体を一体としてとらえ、運動を通して多様なかかわりの中で、仲間のよさに気づき、運動の楽しさや喜びをともに味わうようにすることが重視されている。仲間のよさに気づき、運動の楽しさや喜びを味わうためには、運動の技能や思考・判断に関する課題だけでなく、傾聴、賞賛、励ましなど、連帯感につながるコミュニケーションの課題も重要である。

こうした課題を解決するためには、児童が相互に認め合い、教え合い、励まし合いながら、豊かな人間関係を築き、運動に親しみ、わずかな技能の高まりや仲間との喜びを実感し、児童自らが主体的に課題を解決していかなければならない。

そこで、「健やかな心と体をもつ児童の育成」を研究主題として、「認め合い・教え合い・励まし合い」3つの合いを大切にする体育科指導の工夫を追求することとした。

2 研究の実際

平成28年度

- 研究主題、育てたい児童像、研究の方向性、研究構想、研究内容等の共通理解を図る
- 研究授業7回（各学年・竹の子学級） 各学級 年2回授業（観察授業）
- 心と体のアンケート実施
- 研修（理論と実技）

※新学習指導要領の周知・徹底、FC東京キャラバン隊コーチによる実技研修、朋有エンジョイタイム実技研修 等

- 中間研究のまとめ

■年間講師：元東京都小学校体育研究会会長 東京学芸大学 特命教授 古家 眞先生

平成29年度

- 研究発表に向けて共通理解を図る
- 研究授業7回（各学年・竹の子学級） 各学級 年2回授業（観察授業）
- 心と体のアンケート実施
- 研修（理論と実技）

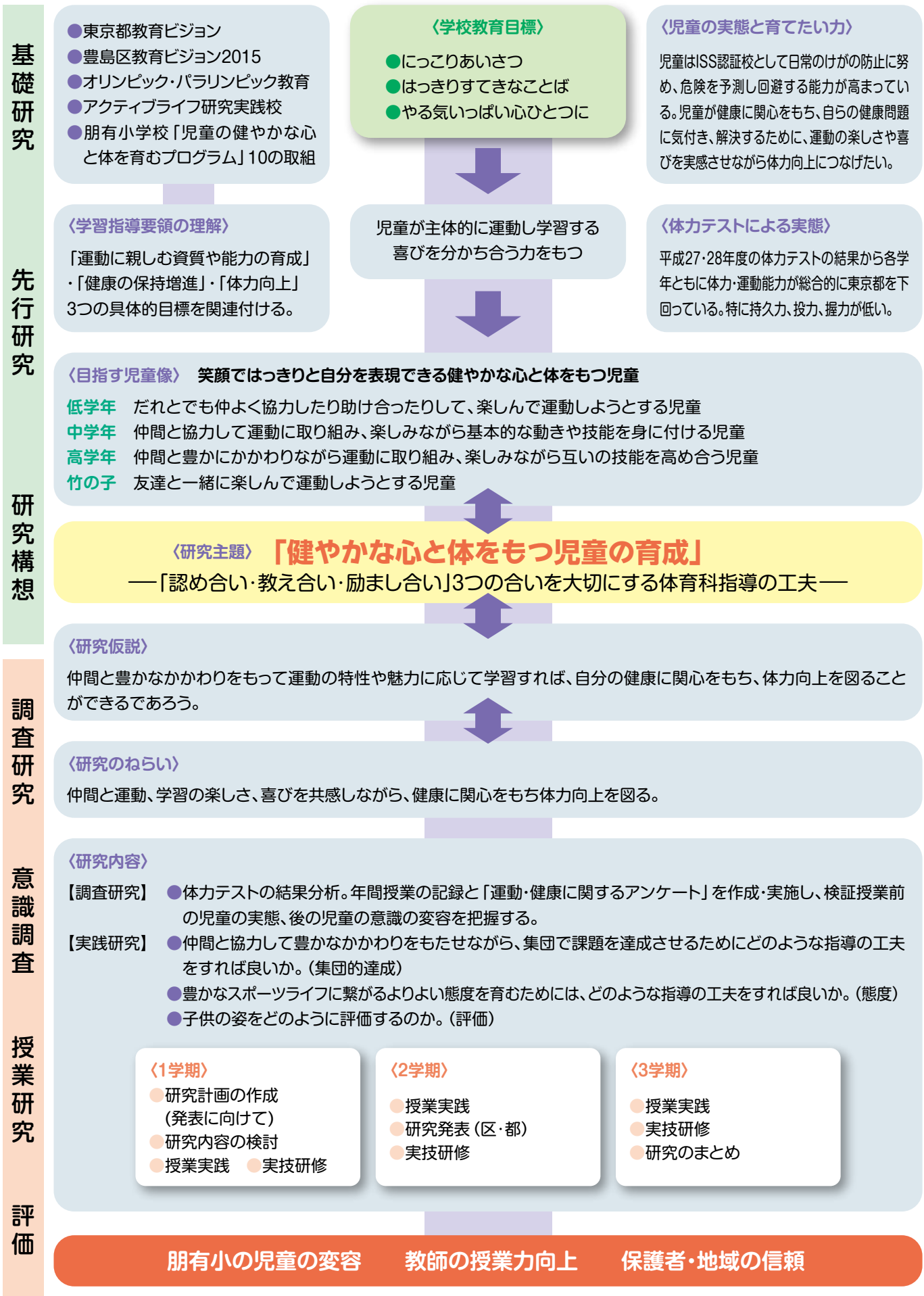
※新学習指導要領の周知・徹底、FC東京キャラバン隊コーチによる実技研修、朋有エンジョイタイム実技研修 等

- 研究発表当日授業（各学年・竹の子学級・分科会発表・全体発表）

■年間講師：元東京都小学校体育研究会会長 杉並区立桃井第三小学校長 末永 弘先生

■5年水泳学習講師：東京都小学校体育研究会水泳系部長 板橋区立緑小学校主任教諭 北川 修司先生

3 研究構想図



4 研究の内容

研究主題に迫る具体的な手だてとして、仲間と豊かにかかわれば、学習意欲の高まりや運動を楽しむための思考・判断、知識及び技能の習得につながると考えた。体育科における仲間とのかかわりに必要な「認め合い・教え合い・励まし合い」を学習過程に位置付けた。

	教え合い			
	教え合いたいという気持ち 意欲	教え合うことが分かる 見付ける力	教え合える術がある 伝える力	具体的な手立て
高学年	自分(友達)の課題を理解し、友達とよい動きを考えようとする	自分(友達)の課題を理解し、よい動きを見付ける	● どうなれば、できるようになるかを伝える ● 根拠をもって伝える	◇ 学習資料 ◇ 課題に合った練習と場の工夫 ◇ ICT機器活用 ◇ 見合い・教え合いの場や時間の設定 ◇ 学習形態の工夫 ◇ 教師の言葉かけ
中学年	自分と友達の動きを比べ、よい動きを考えようとする	自分と友達の動きを比べ、よい動きを見付ける	● できているか、できていないか、ポイントをもとに伝える ● 何らかの方法(ジェスチャー、擬態語など)で伝える	● よい動きの理解 ● よい動き、よい考え、よい態度の賞賛 ● よい動きの紹介 ● 声をかけやすい雰囲気作りなど
低学年	友達のよい動きを見ようとする	自分と友達の動きでよいところを見付ける	● できているか、できていないかを伝える ● 友達のよい動きを見て伝える	

認め合い

全ての児童に成功体験させる「簡易化」

簡単なゲームや段階的な動きから始めるといった簡易化を図ることで、技能の低い児童も自信をもって運動する環境が整えられる。一つ一つの成功体験がさらに自信を深め、運動に対する意欲も高まり、友達からも認められることが期待できる。

コミュニケーションの術を身に付けさせる

意図的にコミュニケーションをとりやすい時間を設定し、言語コミュニケーションだけでなく、非言語コミュニケーションの重要性を指導する。

※ 振り返る時間の設定、学習形態の工夫など

励まし合い

「知って試そう」段階で連帯感をもたせる

単元のはじめの段階で、仲間とかかわり合うために必要な約束、行動をルール化したものを取り入れれば、励まし合いや認め合いの技術が身に付き、学級全体やチームやグループ内で、肯定的にかかわれるようになると思える。

学級全体(チームワーク)をよくするためには何が必要か話し合う。

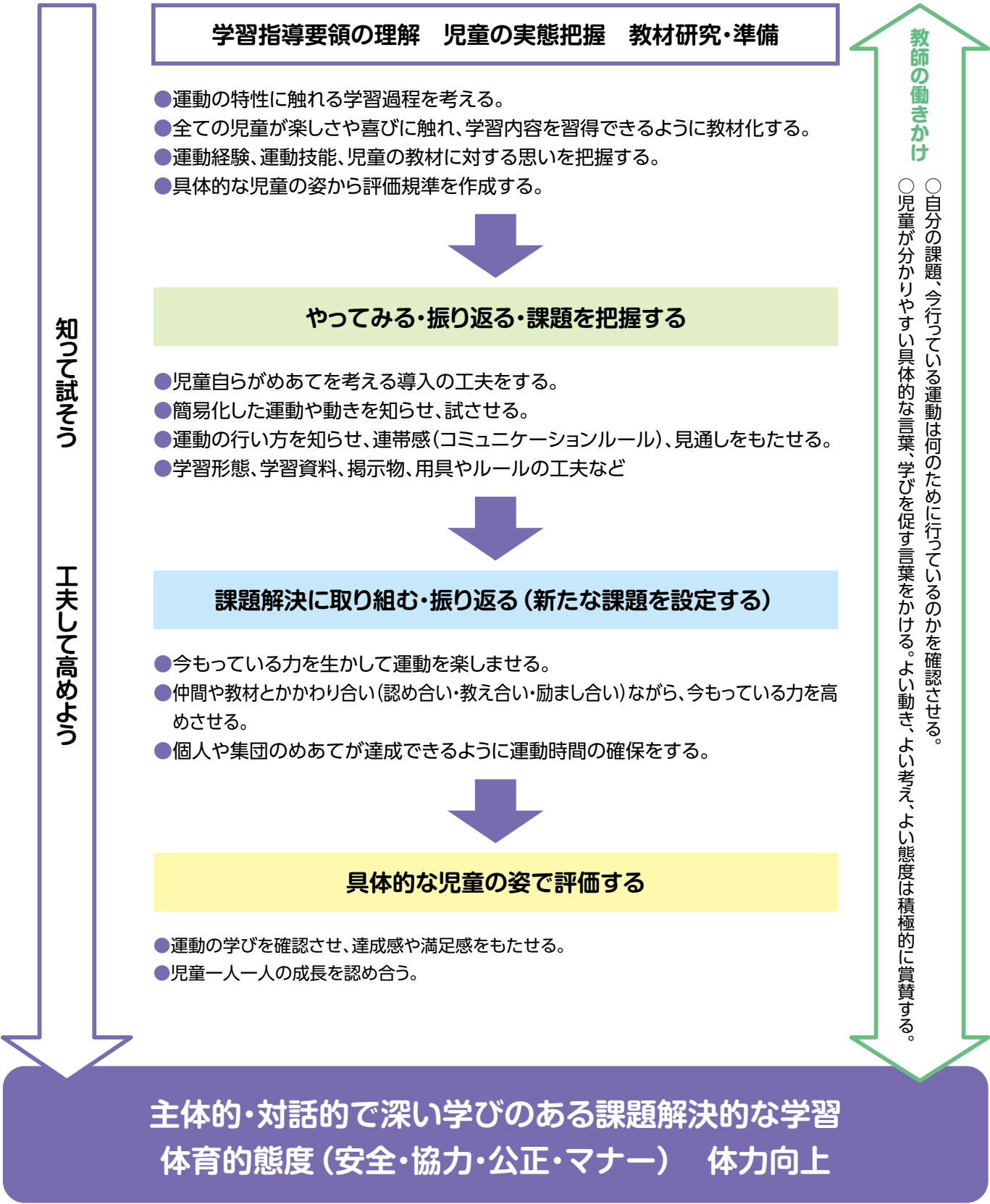
※ 仲間と気持ちを高めたり、共感したりする言葉かけや行動(ナイス)

※ 仲間のミスを励ますなどの情緒的な言葉かけ(ドンマイ)など

良好な人間関係 共に学び合う雰囲気 体育学習の教え合い活動の土台となるもの

学習過程の考え方

3つの合い 認め合い、教え合い、励まし合いながら、みんなで楽しむ



5 調査研究（体力テスト・心と体のアンケート）

(1) 調査の目的

本調査研究は、本校の児童に備わっている体力や児童の生活状況、運動に対する意欲などについて調査を行い、高める必要のある体力項目や生活状況の把握、運動意欲を高めるための授業改善など、健やかな心と体をもつ児童の育成に資することを目的とする。

(2) 調査の方法

体力テストは平成28年度の6月、平成29年度の6月にそれぞれ行い、各学級で記録した。また、平成28年度から平成29年度にかけて、学期毎に項目を変えずに心と体のアンケートを実施した。アンケートは各学級で実施・集計した。

(3) 調査の対象

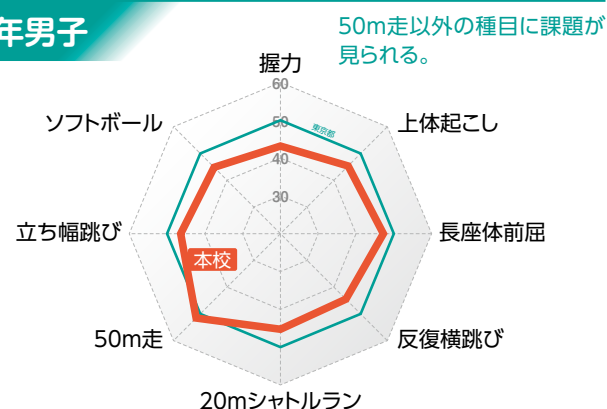
本校の全児童を対象に心と体のアンケート・体力テストを実施した。

(4) 調査の結果と分析（グラフ、表）

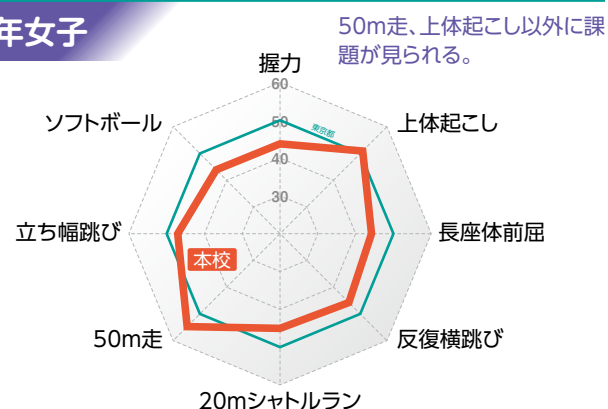
体力テスト 平成28年度 6月実施

※東京都の平均を50として表している。

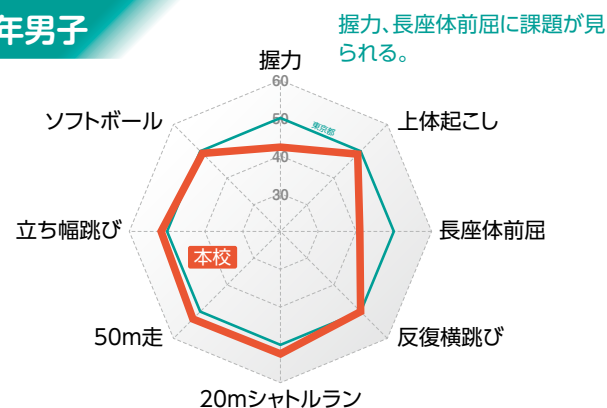
1年男子



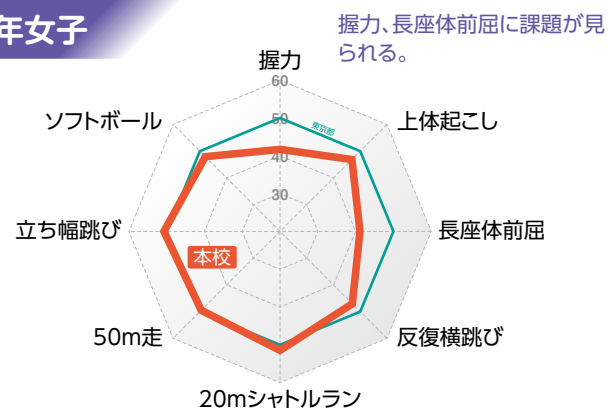
1年女子



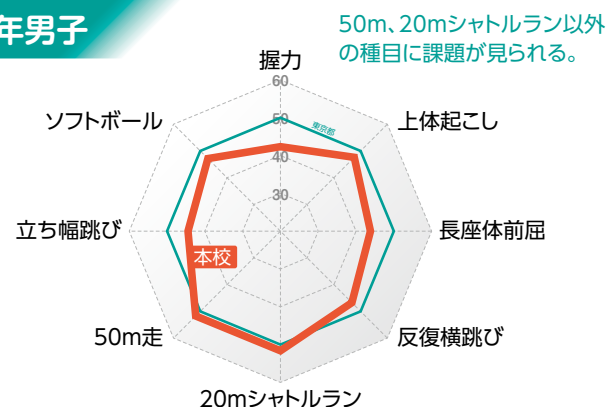
2年男子



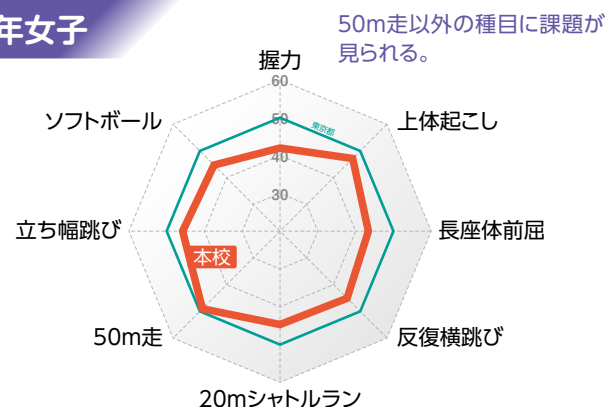
2年女子



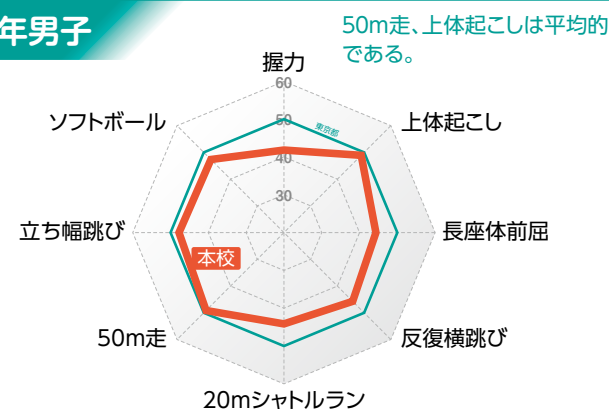
3年男子



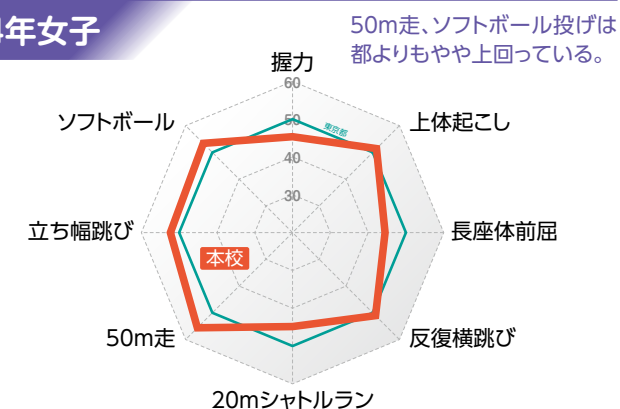
3年女子



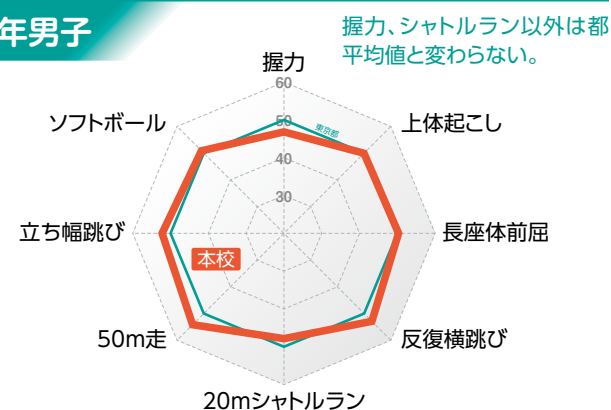
4年男子



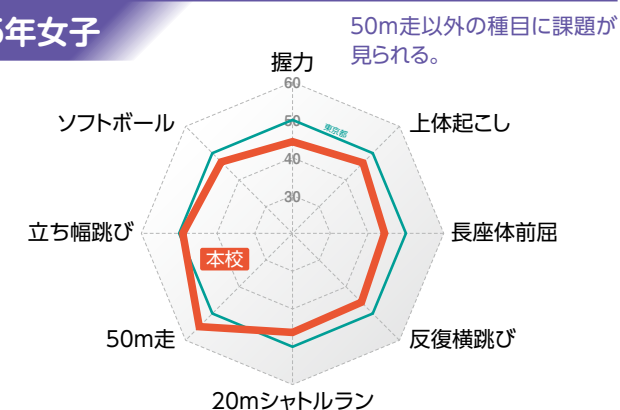
4年女子



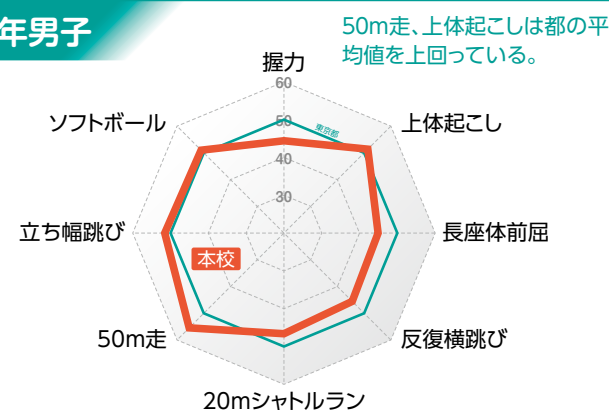
5年男子



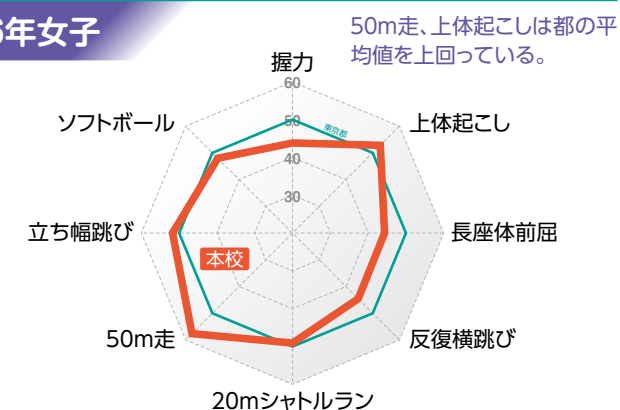
5年女子



6年男子



6年女子



平成28年度の結果から

各学年の種目ごとの数値を見てみると、50m走は東京都の平均を上回っているものの、ほとんどの種目が東京都の平均を下回っており、総合的に体力が低い。特に、握力、20mシャトルラン、ソフトボール投げの数値を見ると東京都の平均を大きく下回っており、握力、持久力、投力が課題であることが分かった。

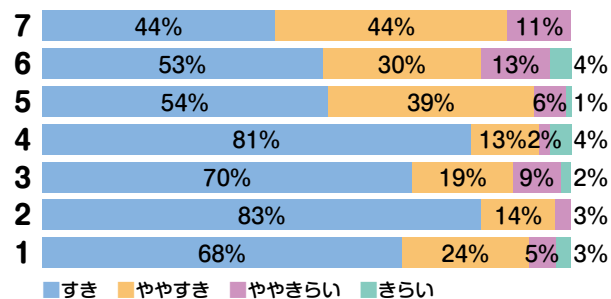
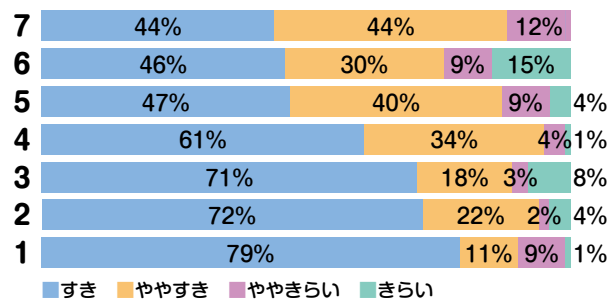
結果を受けて

本校の実態から、総合的に体力を高めていながら、特に握力、持久力、投力を高めることが課題であるととらえた。そこで、平成28年度から始まった本研究では、教員の体育の授業力向上図るために様々な領域で校内研究を行うことや児童に運動の楽しさを味わわせながら、体力向上を図るために朋有エンジョイタイム（業間運動遊び）を実施することに取り組んできた。これから、平成29年度のスポーツテストの結果をもとに分析をし、運動遊びの精選、工夫等をしていく。

平成28年度3学期

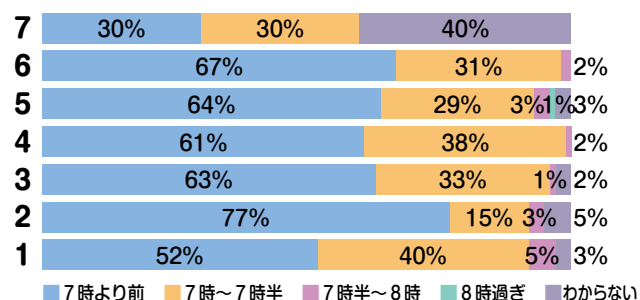
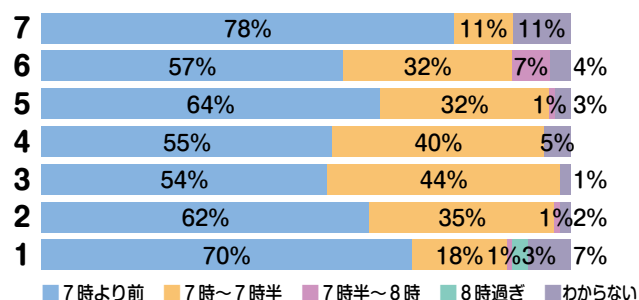
平成29年度1学期

質問1 あなたは運動（体を動かすこと）が好きですか。



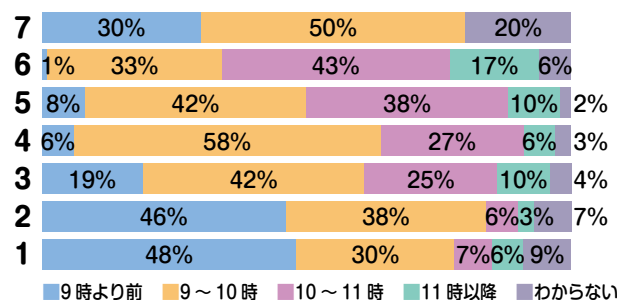
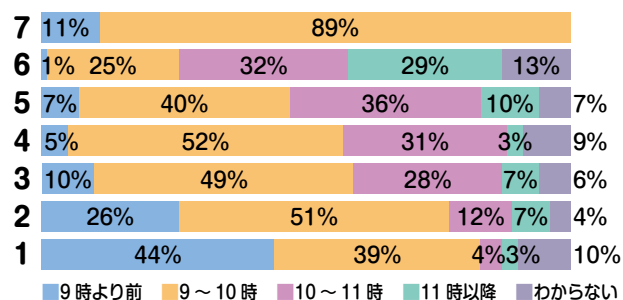
運動に対して肯定的に捉えている児童が多いが、学年が上がるにつれて減少する傾向も見られる。

質問2 あなたはいつも何時に起きますか。



7時前や7時半までに起きている児童が大多数で、学年によるばらつきは見られない。

質問3 あなたはいつも何時に寝ますか。

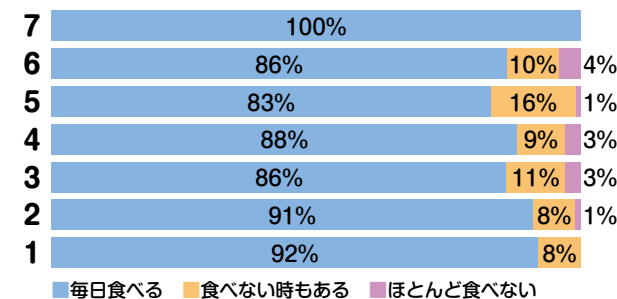
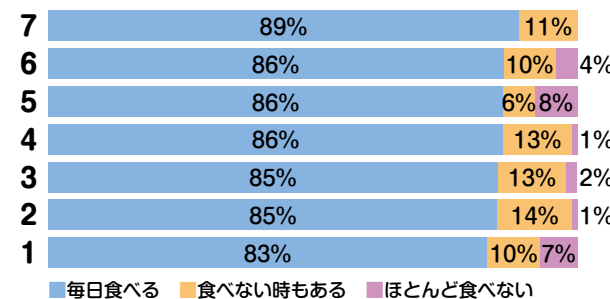


9時から10時の間の割合が高く、学年が上がるにつれて時刻が遅くなっていることが分かる。

平成28年度3学期

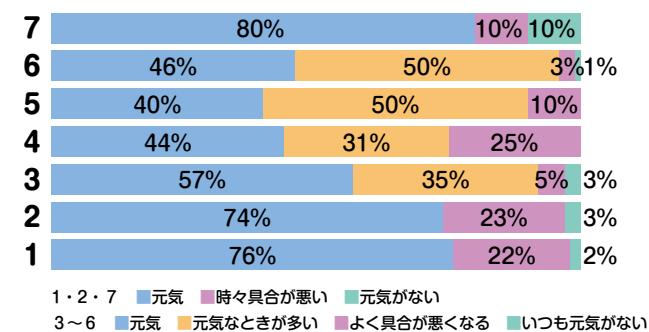
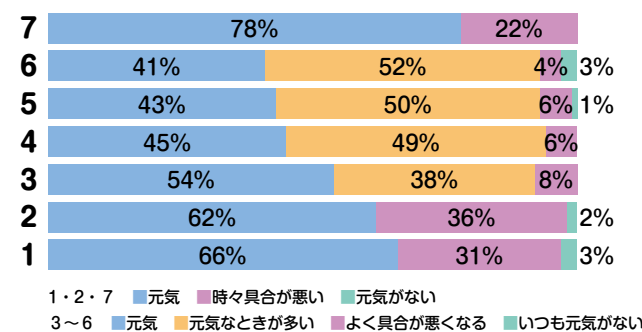
平成29年度1学期

質問4 あなたはいつも朝ご飯を食べていますか。



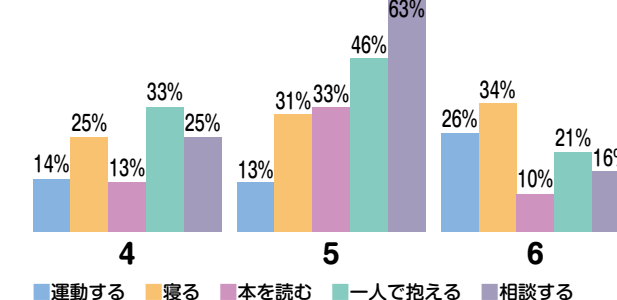
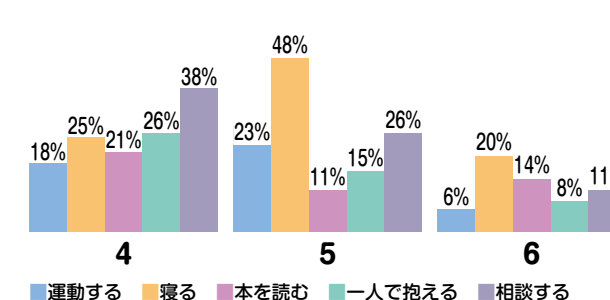
毎朝しっかりと朝ご飯を食べている児童が9割近くいることが分かる。

質問5 普段自分は、どんな体の調子の時が多いですか。



肯定的に答える児童がほとんどだが、元気と答える児童は学年が上がるにつれて減少している。

質問6 不安や悩みを抱えたとき、どうしていますか。（複数回答可）

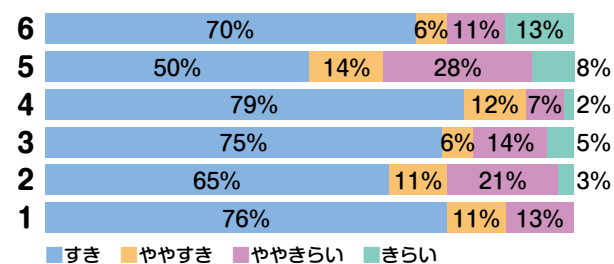
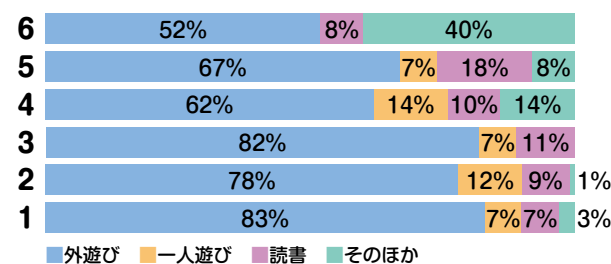


学年毎にかなり差があり、運動をすると回答した割合が一番高いのは5年生だけであった。

平成28年度3学期

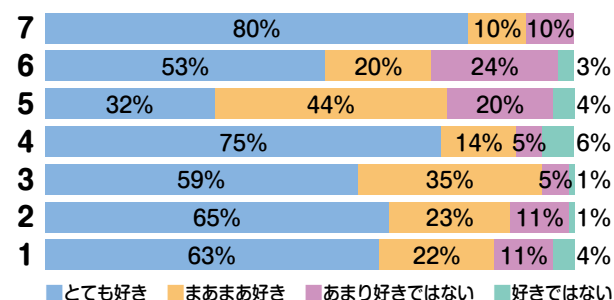
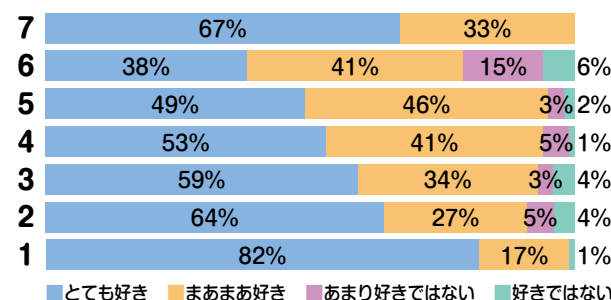
平成29年度1学期

質問7 休み時間に何をして過ごすのが好きですか。(複数回答可)



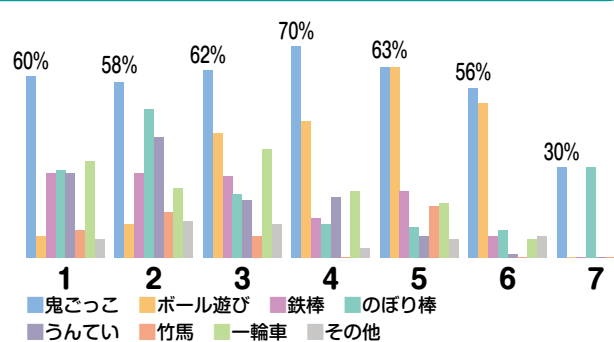
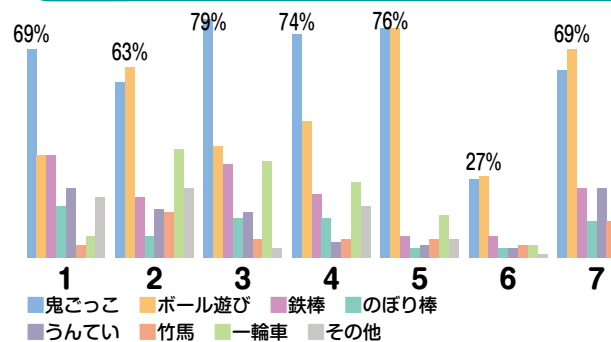
割合としては外遊びが一番多いが、読書と回答する児童の割合も高いことが分かる。

質問8 休み時間に外遊びをするのは好きですか。



外遊びをするのが好きと回答する児童は多いが、低・高学年は好きではないと回答する児童もいる。

質問9 外遊びでは、何をして遊んでいますか。(複数回答可)

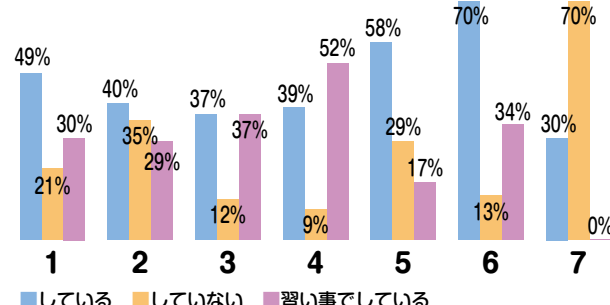
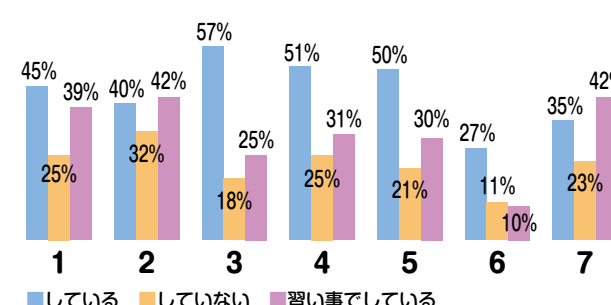


どの学年も鬼遊びが人気であるが、次いでボール遊びが人気だということが分かる。

平成28年度3学期

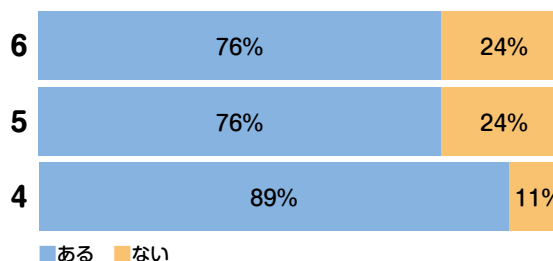
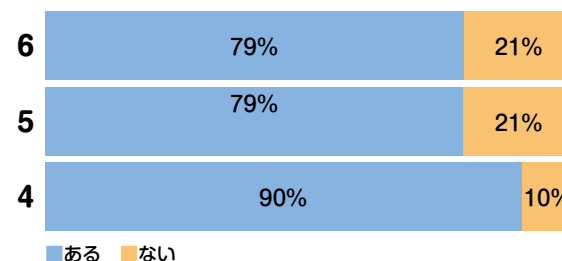
平成29年度1学期

質問10 放課後に外遊びや運動をしていますか。



学年によってばらつきがあるが、今年度は高学年が放課後によく運動をしていることが分かる。

質問11 スポーツをしていて、楽しいときはありますか。



8割の児童がスポーツをしていて楽しいときがあると回答した。

平成28年度と平成29年度の結果から

運動が好きと回答する児童が平均80%と多い。そして、徐々にその割合は増加している。休み時間に外遊びをするのが好きと回答する児童は、各学年多少の増減があるものの、割合としては、90%前後と比較的高いことがわかる。外遊びの内容としては、鬼遊びやボール遊びがほとんどである。しかし、昨年度と比較するとボール遊びが減少し、のぼり棒やうんていが増加した。体育の学習や朋有エンジョイタイムを通して、自分がこれまで行っていた遊び以外の運動に触れたことで、遊びの幅が広がったことが考えられる。

調査の開始以降、起床・就寝時刻は変化がほとんど見られない。やはり、高学年になるにつれて就寝時刻が遅くなる傾向が見られる。起床時刻はどの学年もほとんど7時より前に集中している。低学年・竹の子学級(特別支援学級)の睡眠時間は約9～10時間、中・高学年は約8～9時間である。朝ご飯を毎日食べていると回答する児童が多く、体の調子も元気、または元気なときが多いと回答する児童が多い。しかし、高学年の中には極端に睡眠時間が少ない児童もいる。

「不安や悩みを抱えたとき、どうしていますか。」の質問に、第4学年、第5学年、第6学年が回答しているが、学年によってばらつきはあるものの、「運動する」と回答している児童は、それほど多くない。以上の実態から、体育学習の運動従事時間を確保したり、朋有エンジョイタイムを効果的に活用したりすることで、体力向上だけでなく、睡眠や休息を自然と取ることができるように、健やかな心と体を育てていきたい。

6 朋有エンジョイタイム

平成28年度より、「進んで運動する児童、運動好きな児童を増やす」「児童の運動の習慣化を図る」「児童の運動の経験を増やし、体力向上を図る」ことを目指し、朋有エンジョイタイム（業間運動遊び）を実施している。

本校児童のスポーツテストの結果から児童に特に身に付けさせたい力を握力・投力・持久力と設定しました。それらを中心に楽しみながら総合的に体力向上を目指した運動遊びを考え、実践してきました。以下、平成28年度、平成29年度の実践をご紹介します。

実施方法

知る段階

なかよし班（縦割り班）ごとに決まった場へ行き、ローテーションしていく。※1年目

遊びの仕方を知る・安全面の指導

遊ぶ

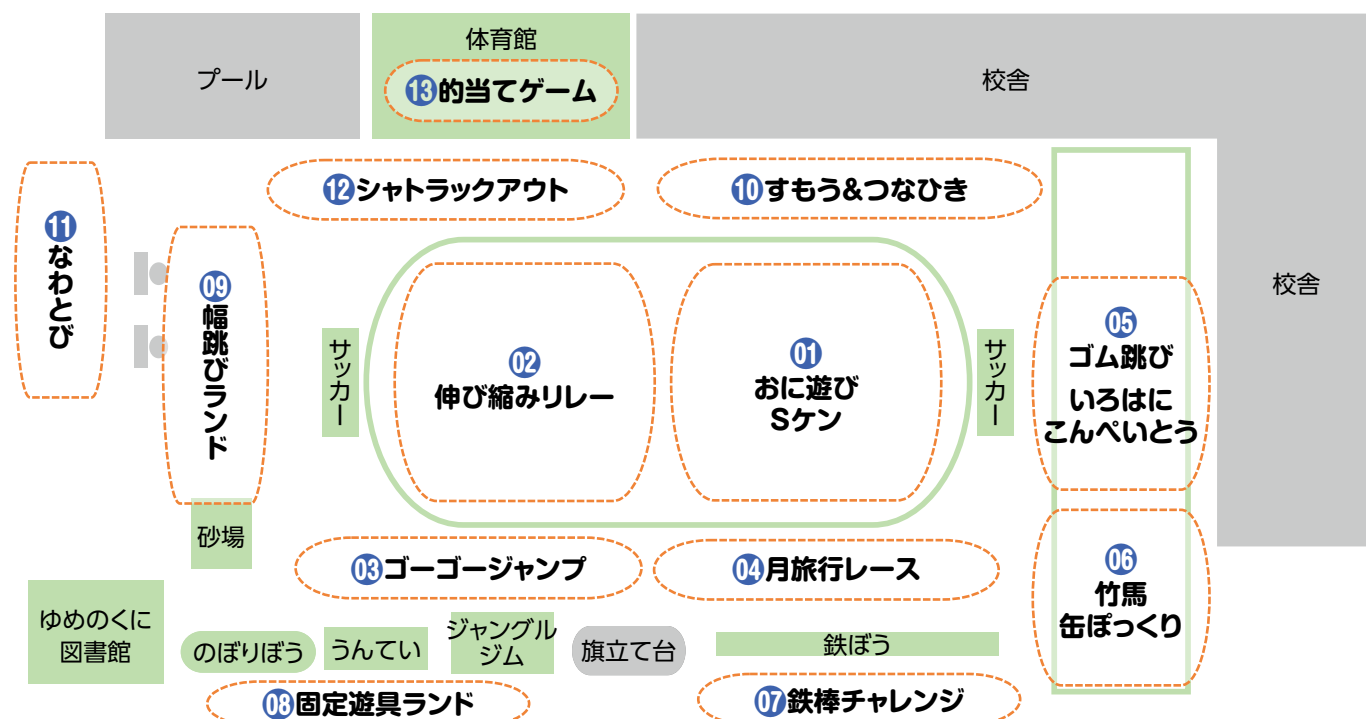
進んで取り組む段階

なかよし班（縦割り班）ごとに決まった場へ行き、ローテーションしていく。※2年目以降

遊ぶ

難易度を上げる

朋有エンジョイタイムの場



運動遊びの内容

【平成29年度実施】

跳



ゴージャンプ

大きな麻袋に入って大きく前にジャンプして競争する。

握



固定遊具ランド

ジャングルジム、うんてい、登り棒の好きな遊具で競争したり、いろいろな技に取り組んだりして遊びを工夫する。

柔



ゴム跳び いろはにこんぺいとう

低いところから高さを変えてゴムを跳ぶ。「いろはにこんぺいとう」と歌いながら、ひもの高さを変える。ひものに触らないように通り抜ける。

巧



竹馬・缶ぽっくりランド

いろいろな高さの竹馬やいろいろな大きさの缶ぽっくりに乗って歩く。

投



シャトラックアウト

バドミントンのシャトルを、段ボールの中に入るように投げる。

走



月旅行レース

9秒間でコーンを回って走る。遠くにあるコーンほど高得点になる。



走

のびぢみりレー

列を伸ばしたり縮めたり、チームが有利になるように走ってリレーをする。



握

鉄棒チャレンジ

ツバメ・布団干し・前回り下りの後は、好きな技にチャレンジする。



投

的当てゲーム

ボールを投げて、段ボールの的を倒す。時間内にたくさん倒した方が勝ち。

体力テスト これがのびる!!!

- 握 力 ▶ 握力
- 投 力 ▶ ソフトボール投げ
- 持 久 力 ▶ 20mシャトルラン
- 走 力 ▶ 50m走
- 巧みな動き ▶ 反復横跳び
- 柔 軟 性 ▶ 長座体前屈
- 跳 躍 力 ▶ 立ち幅跳び
- 筋 力 ▶ 上体起こし

平成29年度から上記のように、児童に高まる力を示した。



持

鬼遊び&Sけん

手つなぎ鬼やしっぽ取り鬼など、様々な鬼遊びをする。



握

すもう&つなひき

バランスを取りながら、立ち相撲やししがみ相撲をしたり、腰を入れて綱引きをしたりする。



跳

幅跳びランド

思いきり踏み切り、跳んだ距離で得点を競う。



巧

なわとび

短縄、長縄に取り組む。2人跳びや8の字跳びをする。

【平成28年度実施】



リズムでけん玉

手つなぎ鬼やしっぽ取り鬼など、様々な鬼遊びをする。



飛ばせ! めんこ ならせ! 紙鉄砲

勢いよく相手のめんこをひっくり返す。大きな音が鳴るように紙鉄砲を振る。



すもうランド

砂場でバランスを取りながら、立ち相撲やししがみ相撲をする。
※29年度はすもう&つなひきに変更

平成28年度は
体育館改修があったため、
校舎内でも
運動遊びの場を設置した。

研究協議会



授業終了後、教員それぞれが授業の視点をもとに意見や考えを付箋に書く。それから、竹の子学級、低学年、中学年、高学年の混合グループで協議を行い、成果と課題、改善策などを出し合う。付箋を貼りながら意見を出し合い、改善策まで話し合うため、全教員が積極的に参加し、次回の研究授業に生かすことができる質の高い協議会になっている。

朋有エンジョイタイムに向けて指導方法の研修



平成28年10月から毎週金曜日に全校で運動遊びを行っている。始めるに当たり、体育的行事委員会を中心に児童の実態を把握し、どんな運動遊びが児童にとって魅力のあるものかを検討し、種目を決定した。実施に当たって運動遊びのポイントや指導法などを確認し、全員で動いて試した。

FC東京キャラバン隊コーチによる体ほぐしやボール蹴りの実技研修



FC東京キャラバン隊コーチの方に体ほぐしやボール慣れ、ボール蹴り、サッカーなどの指導方法を教えてもらう。技能的な指導はもちろんだが、指導者としての具体的な言葉かけや学びを促す言葉かけなど、体育科の授業に生かせることばかりである。

これまでの本研究の成果と課題は以下の通りである。

成果

- 《3つの合い》「認め合い・教え合い・励まし合い」を取り入れた学習過程を考えることで、学習の流れについて理解を深めることができ、児童も学び方をつかむことができた。
- 《3つの合い》を取り入れた学習を進めていく中で、学習中に友達同士でかかわる時間が増え、学習の満足度も上がった。特に「認め合い」や「励まし合い」について、よい声かけが増えた。
- 《3つの合い》を取り入れたことで、チームで協力して練習や試合をすることが楽しいと感じ、チームで考えた作戦を意識して動く児童が増え、達成感を味わわせることができた。
- 簡単なゲームや段階的な動きから始めるといった簡易化を図ることで、技能の低い児童も自信をもって運動する環境が整えられた。
- 成功体験によって運動に対する意欲が高まり、どの学年の児童も楽しんで体育に取り組んでいる様子が見られた。
- 運動の魅力に応じた場の設定を工夫することで、児童が楽しみながら技能を身に付けることができた。
- 1単位時間の前半に、音楽に合わせた準備運動や運動感覚づくりを行ったことで、短時間で、主運動に必要な運動感覚を養うことができた。
- 1単位時間の中に振り返りの時間を確保することで、友達のよい動きや声かけを見付け、認め合う姿が多く見られるようになった。
- 運動領域の系統性が分かるようになってきたことで、低・中・高学年それぞれ2年間で次年度を見越した指導計画を立てられるようになってきた。
- 特別支援学級では、真似をすることを継続的に指導した結果、技ができる児童をよく観察するようになり、積極的に真似をする姿が見られた。また、新しい技にもチャレンジしようとする意欲も高まった。

課題

- 特性に応じた準備運動を音楽に合わせて行うなど全校で統一する。
- 1単位時間の中で記入できる学習カードの内容と分量の精選し、振り返る視点を明確にする。
- 児童同士の「教え合い」を活性化するために、「教え合い」のモデルとなる声のかけ方を示したり、教師が模範となる働きかけを見せたりする。
- 「教えてもできるようにならない」という理由から、「友達に教えようとしている」とアンケートで回答した児童が減少した。教えたことがすぐにできるようになるわけではないことを伝えることや教え方が正しかったのかを考えさせる必要がある。
- 「教え合い」を具体的にどのように行っていくとよいのか、まだまだ検討の余地がある。
- 「教え合い」をどの領域の学習過程で設定するのが効果的であるか、明確にする。
- 動きのポイントの視点が多すぎると、「教え合い」の際に戸惑う児童がいた。教師側がしっかりとした明確な視点を持ち、「教え合い」につなげ、活発化させるようにする。
- 特別支援学級では、児童がボールを使つての遊び方をあまり知らないの、ボールに触れあう機会を確保し、教員が主導となって児童とボール遊びをすることで日常化につなげていく。